

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

令和4年8月3日

苫小牧市図書館協議会 会長 松井 操人

<総評>

令和3年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、令和2年度に引き続きコロナ禍の影響を受け、事業実施等運営に苦勞しつつも、サービスの向上に向けて取り組まれていることがわかりました。資料や情報の収集、保存という基礎的な業務が確実に行われていること、リラックススペースのリニューアルや、こそだてtime、WEBアンケートなど、市民への様々な配慮やサービスについて充実させようとしていることがうかがわれます。

各種イベントについて、多数実施されていることは評価できるところです。ボードゲームによる交流の場の創設やシニア世代への図書館活用ガイダンスなどの新規事業は、地域の中での図書館が果たすべき機能を向上させる取組として評価できます。各年齢層の様々な目的に対応した取組を継続していくことを望みます。

子どもの読書活動の推進については、学校図書館などと連携し、読書活動推進の拠点として事業は行われていますが、今後は学校司書との連携をより一層深め、子どもの読書活動の推進と図書館利用の促進を図っていただきたいと考えます。

また、感染症の流行がいつ起こるか分からない時代において、電子図書館やSNS、レファレンス受付フォームなどICTの活用を進めることが必要ですが、ICTになじみのない方、特に障がいをお持ちの方や高齢者へのサポートもますます必要になると考えます。

職員だけではなく、ボランティアなどの社会資源を活用した協働により、細やかで丁寧な対応を継続していけるようお願いしたいところです。

今後も、子育て世代、高齢者、障がい者の方々など、あらゆる市民のサービス向上に努めるとともに、読書活動がデジタルで完結してしまうのではなく、人との交流の場としての図書館を発展させていくことを望んでいます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、さらなる図書館運営の充実に努めてください。

「運営計画1 基礎的な図書館サービスの充実」について

【評価する点】

- ・魅力ある図書館に向け、サービス向上、利用しやすいものへと日々、工夫されていると思います。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で休館になった期間を利用して施設の改修・活用等されていること。
- ・誰にとっても居心地のよいスペースを、との配慮と工夫は、限られたスペース、予算、人員の中、十分な実績だと感じます。
- ・どの年代層に対しても幅広く対応されているのがうかがえます。
- ・郷土資料の収集、充実など、蔵書数の目標も達成していて、市民としては、貴重な資料が充実している図書館があるということは、地元のことを知りたいとき、心強い存在です。
- ・高齢者のための環境整備
荷物置きは早速利用させてもらいました。本は重いものもあり助かりました。高齢者に対して行うことは、すべての年代に対して便利であると思います。
- ・障がい者のための環境整備
利用者が少ない分野ではありますが、電子化などで利用しやすくなると思います。利用が増えるよう期待します。
- ・「空間の魅力向上」では、市民へのさまざまな配慮やサービスがよりいっそう充実したことがわかり、よかったです。
- ・子育て世代への利用環境整備が新たに図れたことはよかったですと思います。郷土資料の蔵書およびデジタル化の成果目標が達成されたことも評価に値します。

【改善を要する点】

- ・改善・改修を施した箇所・ことについて、また、導入した資料等について、利用者の活用状況や満足度を確認していただきながら、さらなる改善・改修へつなげていくよう望みます。
- ・外国語版利用配慮
利用パンフレットの配布だけでなく、外国から来る方が多くなる前に、表示等を外国語併用するとよいと思います。紙でもできると思います。

「運営計画2 家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」について

【評価する点】

- ・年齢層にターゲットを当て来館者増を目指していること。
- ・デジタル化が進む中で、ボードゲーム等を活用し、非デジタルで実際に楽しんでもらい、よさを伝えているところ。
- ・コロナ禍を受け、図書館の利用も、非来館型サービスが充実され、変化の時を迎えています。これまでの利用者がとまどうことなくこの変化を受容できるよう、細やかな配慮（活用講座・ガイダンスツアーの実施）もされていることは評価する点です。
- ・広く貢献しようとしています。
- ・既存ボランティアの活動支援
青空こどもとしょかんは、外に開かれた図書館だと思います。ボランティアだけでなく、通りすがりだった人が利用してくれる、楽しく関心を持ってくれる企画です。
- ・さまざまな取組が見られ、よかったと思います。
- ・ボードゲームによる交流の場の創設やシニア世代への図書館活用ガイダンスなどの新規事業は、地域の中での図書館が果たすべき機能を向上させる取組として評価できます。図書館利用目的の多様化が図れる取組を継続していただければと思います。

【改善を要する点】

- ・新しい非来館型サービスを、さまざまな世代に活用してもらうには、さらなるサポートの充実が求められると考えます。
- ・活用講座やガイダンスなどの場に、ボランティアや一般市民との新たな協働体制ができるとよいのでは、と思います。
- ・タイトルの「家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」と図書館の位置づけ（関連性）が希薄に感じます。
- ・苫小牧では2～3年前に子どもの死体遺棄事件がありました。重い内容になりますが児童虐待や貧困問題といった社会派な特集を行ってもよいのではないかと思います。
- ・「レファレンス受付フォーム」の活用が進むことに期待しています。

「運営計画3 教育的役割を重視した取組の推進」について

【評価する点】

- ・読書活動の推進においては、土台作りはしっかりとされており、今後予定通り実施されることを期待します。
- ・移動図書館を含めて各年齢、団体のニーズに応じて選択肢があるのはとてもよいと思います。
- ・コロナ禍が続く中で、子育て世帯（特に乳児のいる世帯）が外出しづらく、孤立化している案件が増えています。図書館で開催されるイベントは、このような世帯にとって今後ますます必要とされる分野だと思います。
- ・ユニークな活動（ひとはことしょかんなど）が企画・開催されていて、各年代、楽しく参加されたと思います。
- ・コロナ禍の中、大変充実していると思います。
- ・シニア世代への図書館ガイダンスツアーは、シニアが外へ出るためにもよい事業だと思います。12月開催でしたが、足元が悪いことを考えると、年1回だけでなく暖かい時期にも開催してほしいと思います。
- ・各種イベントが多数実施されました。コロナ禍による人数制限等があるため、参加者数を増やすわけにはいかず、歯がゆいところですが、「場」を設けていただけたことに感謝しております。
- ・「ひとはことしょかん」の中・高生編、力作ぞろいで、今後も楽しみにしています。
- ・コロナ禍が続く中、事業実施が難しい面もあったかと思いますが、新たな取組も含め前年度以上に事業が実施されたことは評価に値します。学校や各施設などとの連携事業を今後も継続していただきたいです。
- ・子どもの読書活動の推進について、どれも取組がよかったです。

【改善を要する点】

- ・子育て世代を対象とする事業のさらなる充実を願います。中央図書館だけでなく、各コミュニティセンターでの実施の検討や、ボランティアとの協働による青空図書館の小規模なものを市内の公園等で開催するなど、誰もが参加しやすい開催の工夫ができるとうれしいです。
- ・ひとりでも多く、本を介して笑顔になれるようにと願っています。
- ・定例会でもお話が出ていましたが、各小中学校との連携をもう少し深められないものかと感じました。
- ・苫小牧民報の記事のコピーがありましたが、今は新聞を購読する人が減っているので、情報の発信にも工夫が必要かと思っています。

- 学校司書の方と連携を強くして、教科書等で取り上げられている事柄に関連した内容で、図書館利用を促してほしいと思います。
- 「苫小牧市教育研究会学校図書館教育研究部会」が「苫小牧学校図書館協会」と名称変更しましたが、引き続き連携をとり、子どもの読書活動の推進をしていただきたい。

「運営計画4 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について

【評価する点】

- ・各年齢層が足を運んでみようと思える取組をされていること。
- ・様々な分野でのデジタル強化。
- ・来館できない団体や年齢層には移動図書館やデジタルで対応する等、工夫されていること。
- ・アンケートからも読みとれますが、館内ディスプレイの工夫は大変充実していると思います。
- ・単年度指標の未達成は、この状況の中では仕方のないことであり、数値にこだわる必要性は低いと思います。
- ・WEBアンケートは、是非継続していただきたいと望みます。今後の図書館運営にヒントとなる声が、きっと得られると確信しています。
- ・いつも明るく、また来たくなる図書館です。
職員の知識・技術・能力もよい。
- ・運営計画を見ますと、これだけ多くの事業をして、職員の皆さんは、いろいろな研修をしているということ、大変な中で、がんばっていることは素晴らしいと思います。
- ・全体的にコロナ禍の中試行錯誤しながらがんばっていると思います。
- ・コロナ禍でも、できること、実施したことは、図書館みなさんの努力と工夫だと感じています。今年は「70周年プラス1」ということで、ますます市民の方々に笑顔で利用してもらえよう願います。
- ・情報発信ツールの一つとしてSNSの活用が進んだことはよかったと思います。情報交流を含めて、さらなる充実に期待します。
- ・アンケートをWEBでも行い、幅広く意見を収集できたのはよいことだと思います。スタッフの対応のよさも評価されています。施設の修繕も行い、より快適な環境整備が行われたものと思います。Twitterでの情報発信は効果的です。今後のPR向上に期待しています。
- ・保育園などへの団体貸出などはよいと思います。

【改善を要する点】

- ・IT、SNSの活用に関し、市民への周知とサポートがますます必要と感じます。
- ・職員の負担増が懸念されますが、是非、ボランティアなどの社会資源を上手に活用しながら、細やかで丁寧な対応を継続していただけますようお願いいたします。

- With コロナ、After コロナ対応のため図書館の有り方を考える必要があります。
- 知り合いの視覚障がいをお持ちの方が、「私はサピエが使えないんだ」と言っていました。「どうしてかな？」と思いましたが、うまくお手伝いできなくて、何とかしてあげたいと思いました。必要としている人へ、サービスが提供されるよう視覚障がい者福祉協会など、利用者の方へ情報が流れるようにしていただきたい。
- 図書館ではありませんが、マイナンバーカードを使えるようにしてほしいです。
- 紙ベースでの読書のほうが脳の発達にはよいということも宣伝してほしいです。読書活動がデジタルで完結してしまうことを危惧しております。